

DATA FILE



単斜晶系

名 前	DIOPSIDE (ディオプサイド) / 透輝石
化学組成	$\text{CaMgSi}_2\text{O}_6$
色	薄緑色、緑色、赤褐色、灰色、無色など
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	完全
断 口	凹凸状
硬 度	モース 5.5 ~ 6.5
比 重	3.2 ~ 3.5

とう き せき

透輝石

DIOPSIDE

短柱状や板状の結晶であられることが多いが、細かい結晶が集合した塊でも産する。

イタリアで産出した透輝石。緑簾石と共生している。

苦土かんらん石、灰ばんざくろ石、方解石、スピネルなどと共生する。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

結晶は薄緑色や緑色、赤褐色、灰色、無色などで、ガラス光沢を持つ。



劈開は完全で、ハンマーでたたくと凹凸状の断口を示す。



さまざまな色を持つ単斜輝石

輝石の一種で単斜輝石に属する透輝石は、変成岩やその他の岩石の造岩鉱物としてあらわれるほか、隕石中から見つかることもある。結晶は一般的に薄い緑色のものが多いが、クロムを含むものはエメラルドに似た鮮やかな緑色で産出。また、赤褐色や灰色、無色のものもある。鉱物名は、産状によって外見が異なることから、「ふたつの見かけ」を意味するギリシャ語を語源としている。

ト
透輝石



▲十字形に組み合わさって生成した透輝石。



▲鉄の量が少ない透輝石は白色に近い色合いになる。

外見が似ている輝石グループ

透輝石は、成分として含まれるマグネシウムが鉄に置きかわると灰鉄輝石 $[\text{CaFeSi}_2\text{O}_6]$ 、マグネシウムがマンガンに置きかわるとヨハンセン輝石 $[\text{CaMnSi}_2\text{O}_6]$ になる。また、透輝石の成分にナトリウムやアルミニウムが加わると普通輝石 $[(\text{Ca}, \text{Mg}, \text{Fe})_2\text{Si}_2\text{O}_6]$ に変化する。これらの輝石は互いに外見が似ているため、注意深い観察が必要だ。

主な産地



◀イタリアのピエモンテで産出した束状の透輝石。

